

ひまわり

札幌市立幌北小学校ひまわり分校
札幌市立北辰中学校ひまわり分校
学校だより



令和6年10月7日
第24号

昔の偉人の詩、俳句にふれる（中学国語）

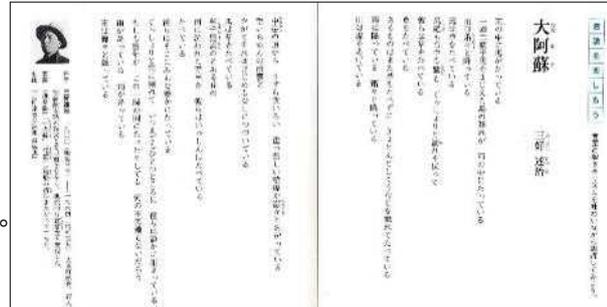
中学校の国語の授業で「大阿蘇」（作：三好達治）や「奥の細道」（作：松尾芭蕉）を読む授業場面がありました。大阿蘇の詩は、「音読を楽しむこと。」がねらいとされ、奥の細道は「歴史的背景に注意しながら読み、文章の特徴を理解すること。」をねらいとしています。

大阿蘇は、作家：三好達治が書いた詩です。学習では、詩を「口語自由詩」（現代の言葉で自由な形式で書かれている。）であることを

を知り、読みながら三好達治が描く文書表現から「静」の部分と「動」の部分を読み解きます。

作家の三好達治は、「何を伝えたかったのだろう？」と詩を読む子どもにとって感じ方は様々です。その思いを巡らせるのが、詩を読み、現代にない表現の方法を知る面白さに繋がります。（大人になってからの方が、興味をもって詩を読まれる方が多いようですね。）

また、奥の細道は（旅行記録集）紀行文です。その旅は東北地方を歩いて回り、155日間で約2400kmの道のりだったとされています。このお便りを読んでいただいている方の中にも古典が好きという方は知っている方もいると思いますが、松尾芭蕉は旅の目的として「俳句を詠むこと。」「和歌に出てくる名所旧跡を巡ること。」とされていたそうです。松尾芭蕉の俳句を詠み、昔ながらの表現方法を知り、芭蕉が込めた想いを考察します。現代社会との違いや自分ない芭蕉の視点を知り、学びを深める場面です。子どもたちは、調べながら学習に励んでいました。皆さんは、昔の偉人の詩や俳句を読んだことはありますか。



英語を使ったコミュニケーション！

1日（火）は、ALT（ハンター先生）の来校日でした。ハンター先生の授業は、英語を通じて楽しい気持ちになったり、英語を話すことに自信がもてるようになったりと子どもたちの気持ちを盛り上げてくれます。今回、中学校では「What〜」



「Where〜」「How〜」の文章の学習が中心でした。（英語で話せるように頑張っていました。）小学校では、道案内の学習です。「go straight」「turn〜」の指示があり、そこでハンター先生が、今までの学習内容が深まるようなクイズを出すなど楽しい時間となりました。

字を書くことを楽しんで！（久保講師による習字授業）

昨年度も分校に来校し、創作書道の授業をしていただいた久保先生が、再び習字の楽しさを伝えてくれました。今回は、教室に掲示してある習字を見た中学生が「習字を書きたいです！」という思いを抱き、久保先生にそのお子さんの思いを伝えたことから実現しました。字に対する自分のイメージや思いを大切にしながら字を書き、

「書くことを楽しむことが大切。」を教えてくれた久保先生。子どもたちが書く字に対して、良いところをたくさん褒めてくれました。



お知らせ ◎7日（月）は5時間目に、常任委員会があります。